



No. 11-1
近畿地方整備局
事業評価監視委員会
平成28年度第5回

こく えい あかし かいきょう こうえん

国営明石海峡公園

【再評価】

平成29年1月
近畿地方整備局

目次

1. 事業の概要
2. 事業の必要性等に関する視点
 - 1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化
 - 2) 事業の整備効果
 - 3) 事業の投資効果
3. 事業の進捗の見込みの視点
4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点
5. 関係自治体等の意見
6. 対応方針(原案)

1. 事業の概要

設置目的・整備等の経緯

- ・都市公園法に基づき、一つの都府県を超える広域の見地から設置(イ号国営公園)。
- ・近畿地方の広域レクリエーション、明石海峡大橋周辺地域の広域レクリエーションの形成を目的に淡路地区と神戸地区を一体的に整備。

	淡路地区	神戸地区
位置	兵庫県淡路市	兵庫県神戸市
計画(開園)面積	96.1(40.4) ha	233.9(41.3) ha
種別	都市公園法第2条第1項第2号イの規定に基づく国営公園	
年間利用者数	約84万人(平成27年度)	—
全体事業費	958億円	
事業化	平成5年度	
基本計画	平成6年5月	
都市計画決定	平成6年度	平成8年度
用地(工事)着手	平成7年度 (平成7年度)	平成9年度 (平成14年度)
第一期開園	平成13年度	平成28年度
事業進捗率	80.3%(平成27年度末事業費)	
用地取得面積率	55.6%(平成28年3月末)	100.0%(平成28年11月末)



イ号国営公園は、全国各ブロックに1箇所、人口集積が高い関東と近畿は2箇所と都市公園法で規定

1. 事業の概要

淡路地区の計画

「国際的でリゾート感あふれる海辺の園遊空間の創造」を周辺施設と連携して実施している。
大規模な土取り跡地の自然を回復、新たな園遊空間の創出を図る。



- ① **自然回復**と望ましい環境形成を目指す
- ② 「花」「海」「島」を活かしたランドスケープと**園遊空間の場づくり**を図る
- ③ 21世紀の快適な**都市づくり**と**ライフスタイル**に**新たな提案**を行う
- ④ **周辺との連携**で「**広域レクリエーション・広域観光**」の核となる**整備**を図る

1. 事業の概要

神戸地区の計画

歴史・文化を含めた自然環境を保全し、自然との共生を中心とした伝統的な自然観を継承することによって、いのちのにぎわいが豊かな「里地里山文化公園」を目指す。



- ① 歴史・文化も含めた里地里山の景観を、新たな技術を導入しながら再生・継承
- ② 国際都市神戸に位置することから、自然と人との共生という伝統的な日本人の自然観を海外の人々にも情報発信
- ③ 誰もが利用できる都市公園という場を活用し、里地里山文化を体感、里地里山を「動態」として保全し、継承するモデル公園
- ④ 環境保全と豊かな暮らし、持続可能な新しいライフスタイルの提案

1. 事業の概要

神戸地区の開園について

計画面積(233.9ha)の約18%となる棚田ゾーン(41.3ha)が平成28年5月28日に開園した。
大都市近郊において、自然と共生していた里山のくらしや文化の継承を目指す。



2. 事業の必要性等に関する視点



1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

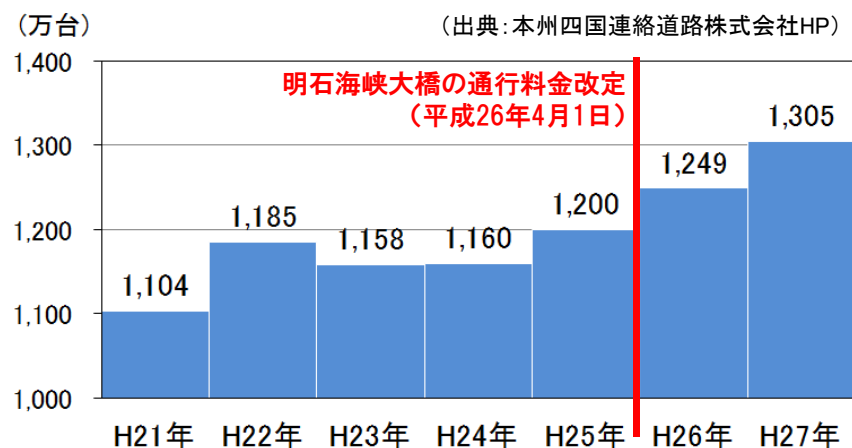
- 平成26年4月の通行料金改定後、明石海峡大橋の通行量、淡路地域への観光入込数とも増加傾向を示している。

■ 明石海峡大橋の通行料金改定(平成26年4月1日)

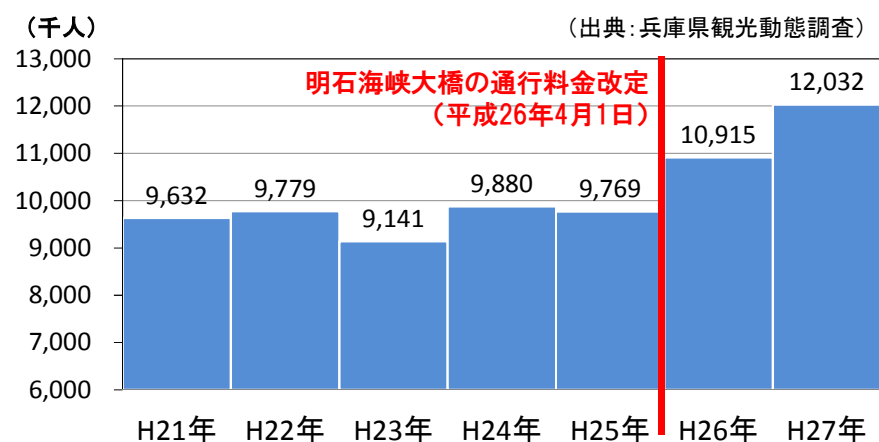
通行料金の改定例(垂水IC～淡路IC間 いずれも普通車)

	改定前	改定後
ETC平日昼間、夜間割引	1,610円	900円
ETC平日通勤割引	1,150円	900円
ETC休日割引	1,050円	900円

明石海峡大橋通行量



淡路地域観光入込数



2. 事業の必要性等に関する視点



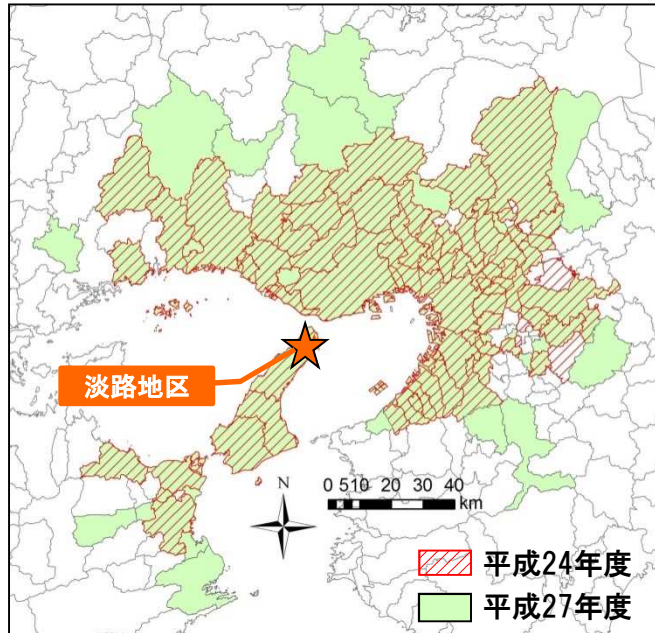
2) 事業の整備効果

・ 国が広域レクリエーションに対応する公園として、来園者居住地圏は拡大傾向にある。来園者数も順調に増加し、淡路花博2015が開催された平成27年度には過去最高の年間83.7万人を記録した。

来園者居住地圏の拡大

淡路地区における来園者の居住地圏は、拡大傾向にある。

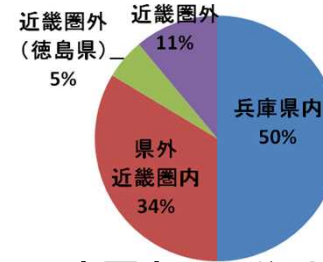
来園者の80%をカバーする居住地圏



(出典:平成24、27年度淡路地区利用実態調査結果)

広域的な集客実績

県外からの入園者が半数を占め、広域から来園者を誘致している。



来園者の居住地

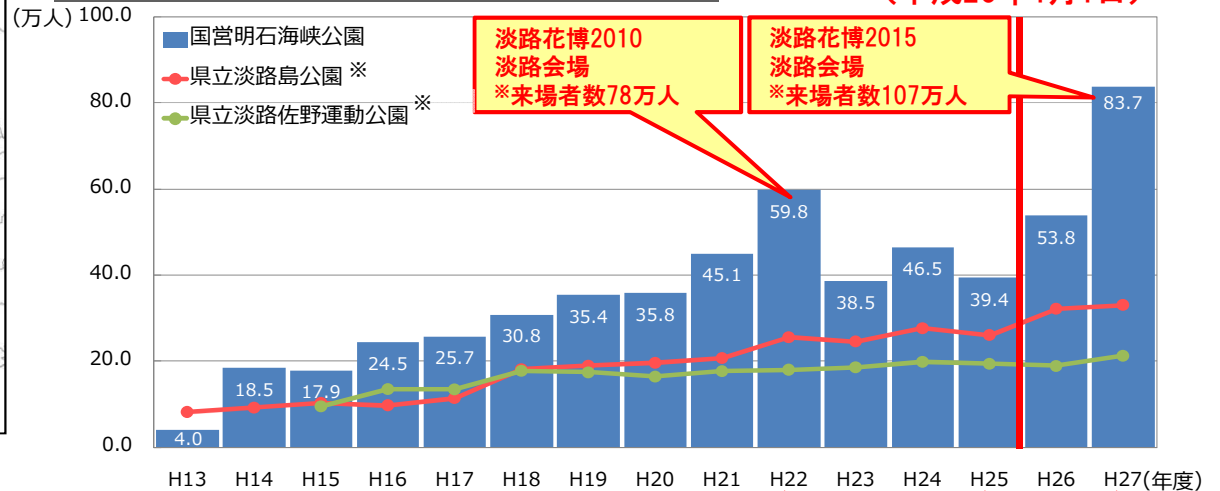
(出典:平成27年度淡路地区利用実態調査結果)

「八重咲きのかわった形のコスモスを初めて見ました。お手入れ大変ですね。」(大阪府 50代 女性)
 「ジャンボ遊具や工作など、子供が楽しめることがたくさんで大満足でした。」(徳島県 40代 女性)
 「ドライブで来ました。入園料以上に色々楽しめました。」(和歌山県 40代 男性)

(出典:平成27年度お客様ご意見カード)

淡路地区 公園来園者数推移

明石海峡大橋の料金改定
(平成26年4月1日)



※淡路会場：国営明石海峡公園淡路地区、淡路夢舞台
 ※県立淡路島公園、県立淡路佐野運動公園：
 いずれも淡路島内で兵庫県が整備管理する公園

淡路花博
2010

前回評価

淡路花博
2015

2. 事業の必要性等に関する視点

2) 事業の整備効果

- ・ 1年中どの時期においても、花修景や花にふれあう体験が楽しめる公園づくりを行っている。

四季を通じて花の魅力を提供

春季には、開花期の違うチューリップの球根を深さを変えて混植し、開花時期を長く保つための工夫を行う等、高度な植栽技術を駆使し、1年中どの時期においても美しい花が楽しめる公園づくりを行っている。



花にふれあう体験プログラム

花に親しむきっかけとなり、花への知識を増やすことができるような体験プログラムを多数実施している。



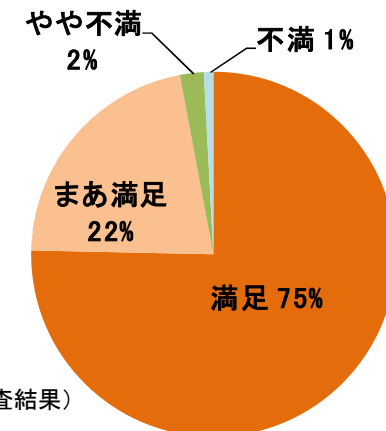
ボランティアによる
フラワーガイドツアー



コスモスの摘み取り体験

高い満足度の獲得

緑の量や花の演出などについての来園者満足度は、「満足」「まあ満足」の合計が97%と、高い満足度を獲得している。



(出典：平成27年度淡路地区利用実態調査結果)

緑の量や花の演出などについての満足度

2. 事業の必要性等に関する視点

2) 事業の整備効果

- ・ 子供から高齢者まで幅広い年齢層やニーズに対応するイベントやプログラムを提供している。

幅広い年齢層に対応するイベント・プログラムの実施

子供からお年寄りまで、幅広い来園者に対応するイベントやプログラムを実施している。



昆虫の生体や標本の展示



子ども向け科学学習展示



三世代で楽しめる
正月飾りづくり



土取り跡地自然回復の
環境学習ツアー

健康や福祉をテーマにした取り組み

大学との連携による園芸療法課程の実践プログラムや、障がい者が植物に触れる福祉活動の場等として活用されている。



植物とのふれあいによる
園芸療法



車椅子利用者でも可能な
植栽体験

イベント・プログラム開催回数・ 参加者数の変化

	平成22年度	平成27年度
開催回数	315	602
参加者数	5,517	38,694

2. 事業の必要性等に関する視点

2) 事業の整備効果

- 整備された広いオープンスペースは大型イベントの場として活用され地域の交流拠点となっている。

駐車場、トイレ等のインフラが整った公園で、安全・快適に大型イベントが開催

淡路花博花みどりフェア、淡路市夏まつり、野外コンサート等、国営公園の広大な芝生広場等を活かして、一日に数千人から5万人を集めるような大規模なイベントが行われている。



淡路花博2015花みどりフェア

持ち込みイベントの開催回数・
参加者数の変化

	平成22年度	平成27年度
開催回数	12	25
参加者数	26,701	81,078



淡路市夏まつり



大規模音楽イベント
Freedom Aozora

2. 事業の必要性等に関する視点

2) 事業の整備効果

- ・ 海外からの来園者に対しても花の公園の魅力を発信するなど、国営公園としてインバウンド促進に向けて取り組んでいる。

来園を促進するための広報活動

海外からの来園者促進に向け、外国語パンフレットを作成するとともに、関西空港や神戸空港に配置する等、誘致に向けた取り組みを行っている。



外国語パンフレット



関西空港での設置状況



神戸空港での設置状況

外国人の来園状況

旅行会社への情報提供等により、外国人来園者は、近年、バスツアー等での来園が増加している。

バスツアー等の団体客の
国別来園者の傾向※

台湾：623名

中国：37名

タイ王国：56名

その他：488名

※ツアー会社へのアンケートに記入のあった来園者データ(平成27年度)

日伊修好通商条約150年等を記念し、世界中からフェラーリとそのオーナーが参加交流するイベントでは、国営明石海峡公園がツアー会場の一つに選ばれた。



75台のフェラーリが集った
フェラーリ・カヴァルケード・
インターナショナル2016

2. 事業の必要性等に関する視点

2) 事業の整備効果

- ・平成27年3月に陸上自衛隊中部方面隊と「災害時等の国営公園の占用に関する協定」を締結した。災害発生時には、広域防災拠点としての活用が想定されている。

南海トラフ地震対応で、自衛隊が国営公園を災害派遣活動に使用する協定を締結するのは**全国初**の取り組み。

【期待される効果】

- ・支援車両等の集結や後方拠点として必要な**広いオープンスペース**を速やかに確保することで災害時における**初動の応急対応を迅速化**
- ・高速道路等からのアクセスが良好であり、**広範な地域からの受け入れが可能**

【災害時の自衛隊使用イメージ】

- 物資の集積、臨時ヘリポート、部隊の露营地
- トイレ、給水地点
- 電気供給地点 等



協定締結式



園内でのヘリ発着訓練

【災害時における大規模公園の活用例】

(平成16年11月中越地震 国営越後丘陵公園)

陸上自衛隊の後方支援本部及び被災市町村への物資配送等の拠点として活用した



設営の状況

2. 事業の必要性等に関する視点

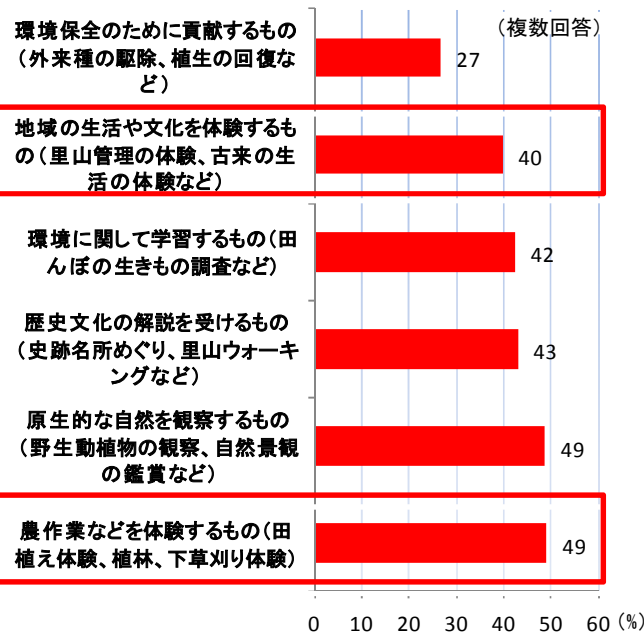
2) 事業の整備効果

・市民との協働による公園整備・運営により、里山体験や市民活動の場を提供。高い農作業体験等へのニーズに対応している。

地域の里地里山を活かし、残す取組み

農作業体験等へのニーズ

子供に参加させたいエコツアーの種類



(出典: 環境問題に関する世論調査(H26.9内閣府))

市民との協働による公園整備・運営

整備段階から、多くの市民団体が参加している。里山や自然に関する知恵や技術を活かし、地域の里地里山を保全するとともに、市民が公園利用者をおもてなしする**市民参加型公園づくり**のモデル事業となっている。



園内で活動する市民団体

(H28.4現在)

各団体のテーマ	会員人数	神戸地区での活動開始時期	主な活動概要
野草	20	H13	野草の保全・育成・環境整備
炭焼き	16	H13	樹林管理、竹林管理、炭焼き
<NPO> 障がい者支援	18	H14	知的障がい者による竹林管理
希少動植物保全	33	H15	希少植物・希少水生生物の調査
<NPO> 茅葺き	10	H16	草地(茅場)管理、古民家啓発イベント
きのこ	23	H16	キノコの調査・栽培、観察コース整備
ビオトープ	3	H16	水田耕作(水田ビオトープ)
ため池・湿地生きもの	7	H17	ため池の生物調査、生きもの観察会
<NPO> シニア生きがい社会貢献	8	H18	水田・畑地耕作、耕作イベント
環境・里山づくり	22	H18	竹林管理、竹細工イベント
子どもの社会体験、自然体験	7	H19	耕作体験イベント
<大学> 里山	3	H20	水田耕作、ワークショップ
<大学> 里山	68	H21	水田耕作、農作物の活用・加工・研究
野鳥	14	H21	野鳥生息調査、野鳥観察会
あいな里山参画団体運営協議会		H22	樹林・耕作共同管理 大型イベントの企画調整

2. 事業の必要性等に関する視点

2) 事業の整備効果

・里山の環境や伝統的な自然観が失われていく中、季節毎の体験プログラムを継続的に提供するなど、自然と共生する里山文化を次世代に継承している。

地域の里地里山を活かし、残す取組み

季節に応じた里山体験プログラム

二十四節気七十二候に表される季節の移り変わりに応じ約15日毎に異なるプログラムを用意。里山維持管理作業と収穫をセットにした体験プログラムを提供し、誰もがその季節の里地里山の生活の営みを体感できる。

プログラム例



あぜの草引き



トウモロシの収穫

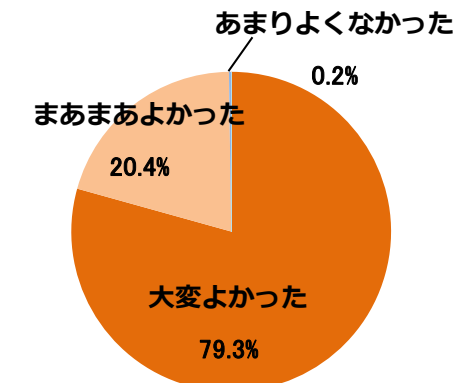


古民家のかまどで調理し、その場で味わう



節気ごとの体験プログラムの例
(平成28年度 一部抜粋)

四季(旧暦)	月	二十四節気	イベント名	開催日	参加者数
夏	6月	芒種	梅の収穫と保存食づくり	6月12日	57
		夏至	田植え体験	6月18日	30
	7月	小暑	らっきょう収穫と保存食づくり	7月3日	57
		大暑	田んぼのかかしを作ろう	7月24日	41
秋	8月	立秋	水辺の生きもの観察会	8月7日	15
		処暑	真竹の皮を使った細工	8月21日	16
	9月	白露	おもしろ植物観察会	8月11日	24
		秋分	稲刈り体験	9月24日	25
	10月	寒露	脱穀体験	10月9日	60
		霜降	柿狩り体験	10月16日	21



プログラムに参加した感想
(出典:平成28年度 里山学習プログラム参加者アンケート) 13

2. 事業の必要性等に関する視点

3) 事業の投資効果

■ 便益(B)

改訂第3版 大規模費用対効果分析手法マニュアルに基づき、直接的に公園を利用することで来園者が享受できる「直接利用価値」と、公園があることで感じる地域防災等の満足度の増加分「間接利用価値」の合計を算出

■ 費用(C)

公園事業に関わる建設費、及び維持管理費で算出

■ 事業全体

便益(B)	直接利用価値	間接利用価値	総便益	費用便益比 (B/C)
	2,656億円	576億円	3,232億円	
費用(C)	建設費	維持管理費	総費用	1.7
	1,551億円	365億円	1,916億円	

■ 算出条件

基準年：平成28年度

評価期間：50年間

社会的割引率：4%

適用した費用便益分析マニュアル：

大規模公園費用対効果分析手法マニュアル 改訂第3版(平成25年)

推計に用いた資料：

国勢調査(平成12年、17年、22年、27年)、日本の市区町村別将来推計人口(平成25年公表)、日本の世帯数の将来推計(平成26年公表)

■ 残事業

便益(B)	直接利用価値	間接利用価値	総便益	費用便益比 (B/C)
	285億円	48億円	335億円	
費用(C)	建設費	維持管理費	総費用	1.5
	142億円	77億円	219億円	

※1 便益・費用については、現在価値化した値である

※2 便益・費用の合計値については、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある

※3 残事業については、基準年の翌年度以降の残事業費及び翌年度以降の供用により発生する便益で算出している

※4 残事業の総便益には算定上の用地売却益2億円を含む

3. 事業の進捗の見込みの視点

淡路地区

1) 事業の進捗状況

平成28年度事業内容

- ・現在、海岸ゾーン北部の調査・設計を実施している。

事業進捗上の課題

- ・開園から14年が経過しており、施設の老朽化対策、長寿命化を適切に実施しながら、未開園区域の整備を進める。

2) 今後の事業スケジュール等

- ・引き続き、海岸ゾーン北部の広場整備、展望ゾーンの用地取得、園路整備等を実施し、早期の全面開園を目指す。



	文化交流ゾーン	海岸ゾーン	展望ゾーン	合計
計画面積	約37ha	約22ha	約37ha	約96ha
用地取得	約99%	100%	0%	約56%
開園面積	32.3ha	8.1ha	—	40.4ha

神戸地区

1) 事業の進捗状況

平成28年度事業内容

- ・現在、棚田ゾーンの未開園区域の整備を実施している。

事業進捗上の課題

- ・広大な未整備ゾーンについて、整備と現状保全のメリハリを意識して調査・設計を進めていく必要がある。

2) 今後の事業スケジュール等

- ・第Ⅰ期開園した棚田ゾーンに引き続き、森のゾーン及び水と緑のゾーンの園路広場整備等を実施し、早期の全面開園を目指す。

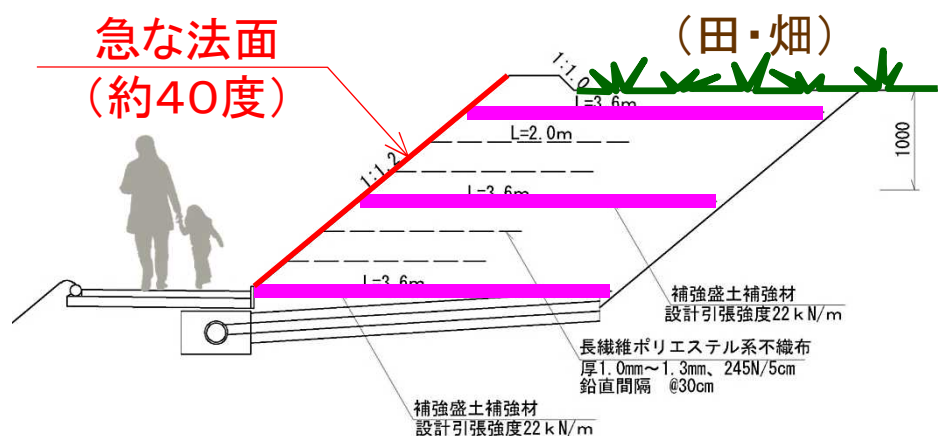


	棚田ゾーン	森のゾーン	自然保全ゾーン	水と緑のゾーン	合計
計画面積	約53ha	約68ha	約69ha	約44ha	約234ha
用地取得	100%	100%	100%	100%	100%
開園面積	37.2ha	3.8ha	0.3ha	—	41.3ha

4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

国営明石海峡公園の計画は、新たな園遊空間や里地里山文化公園の創出を目的としており、周辺の自然環境等に配慮しつつ、今後も技術の進展に伴う新技術・新工法の採用などによりコスト縮減に努めながら、事業を推進していきます。

伝統的な棚田景観の保全・再生と維持管理コスト低減の両立(神戸地区)



当地の伝統的な棚田や段々畑の草土手は急勾配であり、そのままでは高い頻度での補修が必要であったが、土中に補強材をはさみながら造成し直すことで、維持管理コストを低減。

5. 関係自治体等の意見

■兵庫県知事

平成29年1月18日 土第1685号

近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針(原案)の作成に係る意見照会について(回答)

国営明石海峡公園は明石海峡大橋周辺地域の広域レクリエーション形成にとって極めて重要な公園である。

淡路地区は、淡路島観光の中核施設として淡路地域の観光振興に大きく寄与しており、県としても交流人口の拡大に向け、北淡路地域に立地する花緑関連施設のネットワークを形成するうえで重要な施設として位置づけている。今後とも、誘客の目玉となる特徴的な花修景による魅力向上や、近接する夢舞台や県立淡路島公園等との更なる連携を図っていただくとともに、社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて計画を見直していただいたうえで未開設区域の整備を推進していただきたい。

神戸地区は、平成28年5月に一部開園し、里山文化の次世代への継承に向け、公園利用者への里山体験プログラムの提供が始まっている。引き続き、更なる広報による知名度向上や周辺施設と連携した効果的な公園運営を図っていただくとともに、藍那口の早期整備など未開設区域の整備を推進していただきたい。

なお、事業の推進に当たっては、最新の知見を踏まえた新技術・新工法の採用など、可能な限りコスト縮減に取り組んでいただきたい。

5. 関係自治体等の意見

■一般財団法人 淡路島くにうみ協会

- 当協会は、国営公園はじめ関係団体等の参画・協力も得て行っている「淡路花祭」などの「花と緑豊かな環境づくり」をはじめ、「淡路を担う人づくり」「活気あふれる地域づくり」「あわじ環境未来島構想の推進」に取り組んでいる。
- 当協会の取り組みに関連しその中心的役割を担っている淡路地区の整備をさらに推進してほしい。
- 新たに開園した神戸地区における里地里山文化を継承する事業とあわせ、早期の両地区全園開園を目指すとともに、魅力ある管理運営を行って、明石海峡をまたぐ広域的な地域の交流促進を通じた淡路地域全体の観光・レクリエーション振興、地域活性化につながることを期待している。

■一般社団法人 淡路島観光協会

- 当協会は、淡路島島内の観光関係の企業、団体・組織等からなる団体で、広く島内の観光に係る情報発信、誘客活動等を行っている。
- お蔭様で、国内外から島内への観光入込客数も増加しているが、その効果はまだまだ十分とはいえず、当協会としては、今後ともこれらの取り組みを一層推進していかないといけない。
- 国土交通省におかれても、今後とも淡路地域の観光・レクリエーションの核となる国営明石海峡公園の整備をさらに推進し、早期の全園区域開園、そして入込客数の増加を促進してほしい。
- 淡路夢舞台など周辺施設等と連携して、より特色ある施設管理運営に取り組むなど、淡路地域の観光振興や活力増進の効果を発揮していくよう期待している。

6. 対応方針(原案)

1. 事業の必要性等に関する視点

- 明石海峡大橋の料金改定によって淡路島を訪れる観光客は増加傾向にあり、淡路地区においては、四季を通じた花修景や幅広い年齢層に対応したプログラムの提供、広大な敷地を活かした大型イベント開催等により、広域的に来園者を誘致、来園者数も増加傾向で、インバウンド促進にも取り組んでいる。
- 淡路地区では、災害発生時には関係機関と連携して、広域防災拠点として広いオープンスペースを確保し、災害時の初動応急対応を迅速化、広域な地域からの受け入れを可能としている。
- 神戸地区では、市民協働による公園整備・運営により高い農作業体験等へのニーズに対応し、季節毎の体験プログラムを継続的に提供する等、自然と共生する里山文化を次世代に継承している。
- 費用便益比(B/C)は、事業全体で1.7、残事業で1.5。

2. 事業進捗の見込みに関する視点

- 淡路地区においては、文化・交流ゾーンの大部分は開園済み。引き続き、海岸ゾーン北部の広場整備、展望ゾーンの用地取得、園路整備等を実施し、早期の全面開園を目指す。
- 神戸地区においては、用地買収は完了し、平成28年度棚田ゾーンを中心に第一期開園済み。引き続き、森のゾーン及び水と緑のゾーンの園路広場等を実施し、早期の全面開園を目指す。

国営明石海峡公園は、事業の必要性等に関する視点に変更はなく、事業の進捗の見込みの視点から継続が妥当と判断できる。
引き続き事業を推進し、早期の全面開園を目指すことが適切である。

事業継続



No.11-2
近畿地方整備局
事業評価監視委員会
平成28年度第5回

こく えい あかし かいきょう こうえん

国営明石海峡公園

【再評価】

平成29年1月
近畿地方整備局

【前回評価時との対比表】

事業名：国営明石海峡公園

事業化年度：平成5年度

	前回評価時	今回評価	(主な変更点)
	平成25年度	平成28年度	
再評価理由	再評価後3年間が経過	再評価後3年間が経過	
事業諸元	(全体) 330.0ha 【淡路地区】 96.1ha 【神戸地区】 239.9ha	同左	・変更なし
全体事業費	958億円	同左	・変更なし
進捗状況	【淡路地区】 用地取得率(面積)約56% 既開園(面積)約41%(39.5ha)	【淡路地区】 用地取得率(面積)約56% 既開園(面積)約42%(40.4ha)	・用地取得率(面積)変更なし ・開園面積 約1%進捗
	【神戸地区】 用地取得率(面積)約99.9% 既開園(面積)未開園	【神戸地区】 用地取得率(面積)100% 既開園(面積)18%(41.3ha)	・用地取得率(面積)約0.1%進捗 ・開園面積 約18%進捗
進捗状況 (事業費)	約78%	約80%	・約2%進捗
費用対効果B/C (残事業)	1.8 (残事業 4.8)	1.7 (残事業 1.5)	
備考	・平成28年5月28日 神戸地区第1期開園		

感度分析結果

【事業全体】

	変動ケース	費用便益比(B/C)
需要 (全事業)	±10%	1.6~1.8
事業費 (全事業)	±10%	1.7~1.7
事業期間 (全事業)	±10%	1.7~1.7

【残事業】

	変動ケース	費用便益比(B/C)
需要 (残事業)	±10%	1.4~1.7
事業費 (残事業)	±10%	1.4~1.7
事業期間 (残事業)	±10%	1.5~1.5

※感度分析については、改訂第3版大規模公園費用対効果分析手法マニュアルの感度分析の考え方に基づき、都市公園事業の影響要因として考えられる、需要量、事業費の変動、事業期間とし、基本ケース値の±10%を変動幅とした。

「共通-様式1」 検討対象公園

都道府県市区町村名	兵庫県神戸市中央区
部署名	国土交通省近畿地方整備局 国営明石海峡公園事務所
担当者名	

公園名		国営明石海峡公園							
住所		(淡路地区)兵庫県淡路市夢舞台 (神戸地区)兵庫県神戸市北区、西区							
供用(予定)年度	部分供用	(淡路地区)平成14年度,平成15年度,平成16年度,平成22年度,平成28年度,平成32年度 (神戸地区)平成28年度,平成33年度							
	全体供用	平成38年度							
種別		都市公園法第2条 イ号国営公園							
供用年度※1		第一期部分 供用開始時 (平成14年度)	第二期部分 供用開始時 (平成15年度)	第三期部分 供用開始時 (平成16年度)	第四期部分 供用開始時 (平成22年度)	第五期部分 供用開始時 (平成28年度)	第六期部分 供用開始時 (平成32年度)	第七期部分 供用開始時 (平成33年度)	全体供用時 (平成38年度)
施設魅力値	自然・空間系	82,474	114,167	114,167	114,167	194,948	194,948	229,105	257,746
	施設系	3,028	3,028	14,288	14,288	17,840	17,840	17,840	17,840
	文化活動系	28,988	28,988	28,988	28,988	24,809	24,809	33,078	33,078
緑地面積(ha)		26.4	30.1	30.3	31.1	68.0	74.0	150.7	305.3
広場面積(ha)		2.1	4.7	4.7	4.7	11.9	19.0	21.7	21.7
防災拠点機能の有無		有	有	有	有	有	有	有	有
事業費 (百万円)	用地費	47,945							
	施設費	47,865							
	合計	95,810							
維持管理費※2 (百万円/年)		492	505	498	417	1,006	921	1,132	1,689

※1:第一期～第四期は前回評価での適用値

※2:割引前の値を記載

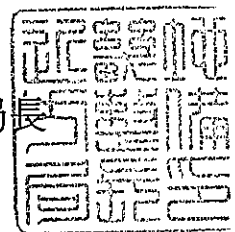


国近整企画175号

平成28年12月22日

兵庫県知事 殿

近畿地方整備局長



近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針
(原案)の作成に係る意見照会について(依頼)

貴職におかれましては、日頃から国土交通行政に対する御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当地方整備局管内における直轄事業については、国土交通省所管公共事業の再評価実施要領(以下「実施要領」という。)に基づき、事業採択後一定期間が経過している事業等について、その効率性、実施過程の透明性を図るべく、近畿地方整備局事業評価監視委員会(以下「委員会」という。)において、再評価に係る対応方針(原案)について審議しております。

このたび、平成29年1月26日(木)に委員会を開催することとなりましたので、実施要領に基づき、委員会に諮る対応方針(原案)の作成にあたり、平成29年1月18日(水)までに、別紙について貴職の御意見を承りたく依頼いたします。

※御意見の送付・問い合わせ先

近畿地方整備局 企画部 企画課 事業評価係

電話 06-6942-1141

FAX 06-6942-7463

(再評価)

【道路事業】

事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
一般国道9号笠波峠除雪拡幅	事業継続	

※貴職の意見を踏まえ、近畿地方整備局事業評価監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。

【公園事業】

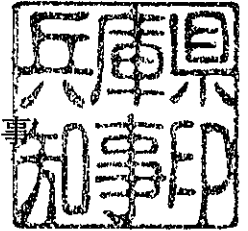
事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
国営明石海峡公園	事業継続	

※貴職の意見を踏まえ、近畿地方整備局事業評価監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。

土 第 1 6 8 5 号
平成 29 年 1 月 18 日

近畿地方整備局長 様

兵庫県知事



近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）の作成
に係る意見照会について（回答）

平成 28 年 12 月 22 日付け国近整企画 175 号で照会のありました標記の件につき
まして、別紙のとおり回答します。

【公園事業】

〈国営明石海峡公園〉

兵庫県知事の意見

国営明石海峡公園は明石海峡大橋周辺地域の広域レクリエーション形成にとって極めて重要な公園である。

淡路地区は、淡路島観光の中核施設として淡路地域の観光振興に大きく寄与しており、県としても交流人口の拡大に向け、北淡路地域に立地する花緑関連施設のネットワークを形成するうえで重要な施設として位置づけている。今後とも、誘客の目玉となる特徴的な花修景による魅力向上や、近接する夢舞台や県立淡路島公園等との更なる連携を図っていただくとともに、社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて計画を見直していただいたうえ未開設区域の整備を推進していただきたい。

神戸地区は、平成 28 年 5 月に一部開園し、里山文化の次世代への継承に向け、公園利用者への里山体験プログラムの提供が始まっている。引き続き、更なる広報による知名度向上や周辺施設と連携した効果的な公園運営を図っていただくとともに、藍那口の早期整備など未開設区域の整備を推進していただきたい。

なお、事業の推進に当たっては、最新の知見を踏まえた新技術・新工法の採用など、可能な限りコスト縮減に取り組んでいただきたい。